



初陣・電子情報工学科応援団（体育祭）

目次	
特集1 学生諸君への要望 ——アンケート結果を見て——	2
特集2 女性教官からのメッセージ ——内面の美を・取りもどそう自分を——	6
贈ることば（5年担任）	8
高専青春クローズアップ（卒業予定者座談会）	9
シリーズ「研究室訪問」（玉野研究室）	12
体 育 祭	14
小文化祭	15
小文化祭文化講演・OBセミナー	16
ロボットコンテスト	17
卒業生の大学生活紹介（立野勝巳）	18
卒業生の活躍状況（古巣典子）	19
学生会だより	20
学寮だより	21
入試説明会	22
シリーズ「中学校訪問」（米生中学校）	23
シリーズ「クラブ紹介」（ラグビー部）	24
吹奏楽部定期演奏会	25
ラグビーフットボール大会	25
冬季球技大会	25
プログラミングコンテスト	25
学生相談室案内	26
トピックス	27
資格試験等合格者	27
行事予定	28
編集後記	28

## 特集 1 学生諸君への要望

# …アンケート結果を見て…

教務主事 瀬戸 洋

本校では、1年生、2年生、3年生を対象に、毎年「学生生活実態調査」を行っています。

本年度は、81項目についてたずねました。

その中から、13項目を選んでここに紹介し、私なりの感想と学生諸君への要望を述べてみたいと思います。(パーセンテージを合計しても必ずしも100%になっていませんが、それは、「その他」や「無効」として小数点以下を4捨5入したためです。)

### 1) どのような目的をもって学校に来ていますか。

- |                  |     |
|------------------|-----|
| (1) 就職のため。       | 38% |
| (2) 目的もなく、なんとなく。 | 27% |
| (3) クラブ活動のため。    | 13% |
| (4) 大学編入のため。     | 9%  |



新入生オリエンテーション

大学編入の全国平均は15%で、本校の約1.5倍です。本年度、本校は、全体の10%に当たる16名の進学が決まっています。平均からいっても、もう少し多くの人が進学を目指してくれたらと思います。

### 2) 学校で一番学びたいことは何ですか。

- |                   |     |
|-------------------|-----|
| (1) 専門の知識を身につけたい。 | 48% |
|-------------------|-----|

- |                            |     |
|----------------------------|-----|
| (2) 幅広い教養や知識を身につけたい。       | 23% |
| (3) 数学や英語など基礎となる科目の力をつけたい。 | 9%  |
| (4) クラブ活動などで特技を身につけたい。     | 9%  |



出番を待つ

高専で勉学している以上、工学のエキスパートを目指すのは当然だと思います。しかし、専門には詳しいが、人間としては疑問符がつくのも困りものです。そういう意味で、幅広い教養を身につけたいという人が23%もいるのは、心強い気がします。

### 3) 学期の初めに、ある程度の生活目標を立てていますか。

- |                |     |
|----------------|-----|
| (1) 目標を立てていない。 | 70% |
| (2) 目標を立てている。  | 29% |

受験戦争に巻き込まれることなく、自分の好きな勉強ができるのは、高専の長所の一つです。しかし、これは両刃の剣で、一步間違うと惰性に陥ることになります。つまり、目標がないため、何となく1日1日漂い流されるようにして暮しがちになるということです。

就職が好調なのも、君たちの危機意識を薄れさせ、卒業さえすればなんとかなるという考えを助長させ

ているようです。これでは毎日の生活に張りがでないと思います。来年度は自分なりの目標を立て、目的意識をもって学校生活を送るようにしたらどうでしょう。



ホームルーム講話

### 4) 学校に行きたくないと思うことがありますか。

- |             |     |
|-------------|-----|
| (1) ときどきある  | 49% |
| (2) ほとんどない。 | 38% |
| (3) いつもある。  | 13% |

文部省の調べによると、平成3年度の全国の高校中退者数は112,933人で、中退率は2.1%だそうです。本校の場合、昨年の中退率は3.2%で、高校の全国平均より1.1ポイント高くなっています。学校に行きたくないということと、学校に行かないということは全く別なことです。もちろん、学校をやめるということとも全く別なことです。

しかし、学校に行きたくないという気持ちがだんだん高じてくると、成績にも影響するし、ひいては退学にも通じてきます。学校に行きたくないと考えている人が13%います。そんな人たちも、多くの場合、いつの間にかそんなでもなくなっていくのでしょうか。

しかし、カウンセラーの先生に相談したり、時が経っても、本校が好きになれない場合は、進路変更を考えたほうが良いのかもしれません。中退者が増えることは、決して学校としても望ましいことではありませんが、我慢できないほど嫌なことを無理強いすることはできませんし、本校で学ぶことが本人にとって一番良いことかどうか、誰にも分からぬことですから。

- |                           |     |
|---------------------------|-----|
| 5) 自宅学習の時間は、1日平均どのくらいですか。 |     |
| (1) ほとんどしない。              | 36% |
| (2) 1時間以内                 | 29% |
| (3) 2~3時間                 | 29% |
| (4) 3時間以上                 | 5%  |

このデータには正直驚きました。自宅学習をほとんどしない人が36%もいることにです。もう少し詳しく見ると、上学年にいくほどこの数値は高くなっています。1年生は28%なのに、2年生は35%、3年生に至っては44%です。そして、この数値は、当然のことながら、成績と比例しています。

前期末成績は、1年生の学年平均が72点、2年生が65点、3年生が63点です。これは、上学年にいくに従い授業内容が難しくなるからではなく、明らかに上学年にいくに従い勉強しなくなるからです。上級生も、もう一度初心に帰り、2時間か3時間の自宅学習はして欲しいものです。

### 6) 家庭学習の内容は次のどれですか。

- |                |     |
|----------------|-----|
| (1) レポート・製図など。 | 47% |
| (2) 復習が主       | 21% |
| (3) 予習が主       | 12% |
| (4) 予習・復習が半々   | 9%  |
| (5) 弱点科目の克服    | 9%  |



教室で

家庭学習において、復習に重きを置くか、予習に重きを置くか、人によって意見が分かれるところです。語学の立場から言えば、予習に重きを置いてもらいたいと思います。語学の授業は、予習をしたうえで受けないと、きっとよく理解できないのではないかと思われます。



電子計算機室

高専生の語学力の弱さは、この数値に出ている予習をする人の少なさに、その原因の一端があるかもしれません。語学については、「初めに予習あります。」です。

## 7) 苦手な科目は何ですか。

(1) 外国語	31%
(2) 物理・化学	19%
(3) 数学	18%
(4) 国語・社会	12%
(5) 専門科目	12%
(6) 保健体育	4%

国立高等専門学校協会が、企業に対して行ったアンケート調査があります。それによると、高専卒業生の優れている点として、専門学力、基礎学力、協調性、積極性などが挙げられています。

それに対し、劣っている点としては、群を抜いて、外国语が一番です。高専卒業生はなぜ外国语に弱いのか。それは、大学受験という厳しい関門を潜らないからだと思います。受験がないということが、この場合裏目に出ています。課外時間を除けば、時間数は普通高校とほとんど変わりありません。そうなると、君たちの取り組み方次第では、もっと力をつけることができるのではないかでしょうか。

その手始めとして、前項でも述べたように、予習をして授業にのぞむようにしたらどうでしょう。そうすると、自然に授業が分かるようになり、分かれば面白くなり、面白くなれば苦手でなくなると思います。

それから、最近は、本屋にはたいてい、ペーパーパック（紙表紙本）が置いてあります。値段も1,000円くらいです。その中から、自分の好きなジャンル（例えば、推理、S F、恋愛ものなど）の本を買ってきて、一定の時間を決めて読んだらどうでしょう。著名人の語学克服の体験談をまとめた本を読むのも、参考になるかもしれません。いずれにせよ、実行あるのみです。早速、今日から取りかかってください。

## 8) 勉強が分からぬとき、おもにどうしますか。

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| (1) 友達にたずねる。          | 59% |
| (2) 教科書・参考書を見て自分で考える。 | 20% |
| (3) そのままにしてしまう。       | 11% |
| (4) 先生にたずねる。          | 5%  |
| (5) 先輩にたずねる。          | 1%  |

学校で勉強する最大のメリットは、先生に直に接しながら学べるところです。それを生かさない法はありません。先生は煙たい。先生に聞くのは面倒だ。それはよく分かります。しかし、それでもやはり、先生に聞くのを勧めます。もっと先生を、いい意味で利用するようにしてください。



図書館閲覧室

## 9) 図書館をよく利用しますか。

- |                |     |
|----------------|-----|
| (1) ときどき利用する。  | 36% |
| (2) ほとんど利用しない。 | 33% |
| (3) 全く利用しない。   | 25% |
| (4) よく利用する。    | 7%  |

ほとんど、あるいは全く図書館を利用しない人が58%もいるのは驚きです。学校の施設を自由に使え

ることも、学校で学ぶメリットです。学校にいながら、図書館や電算室を利用しないのは、正に宝の持ち腐れです。読書室として、自習室として、あるいはリサーチ室として、日常、もっともっと図書館や電算室を利用するようにしてください。図書館や電算室は君たちのため、土曜日も開いています。



「ゴミはゴミ箱へ」

## 10) 本校の掃除状況をどう思いますか。

- |                   |     |
|-------------------|-----|
| (1) あまり良くないが仕方ない。 | 47% |
| (2) もっと掃除を徹底すべきだ。 | 27% |
| (3) 大変よい。         | 16% |

学校がきれいでないと考えている人が74%もいて、安心しました。というのは、君たちの多くが決してこれで良いとは考えていないのが分かったからです。なぜこんなに汚いか。一つは、掃除がきちんと行われていないからであり、一つは、君たちがあまりに無造作にものを捨てすぎるからだと思います。

来年度は、もう少し掃除をていねいにして、ものを手当たり次第捨てないようにして、きれいな学校にしたいものです。

## 11) 睡眠時間はどれくらいですか。

- |             |     |
|-------------|-----|
| (1) 7時間くらい。 | 38% |
| (2) 6時間くらい。 | 33% |
| (3) 8時間以上   | 16% |
| (4) 5時間くらい。 | 12% |

前号の「高専だより」に、留学生諸君の座談会が載っていました。その中に、授業中居眠りする学生

がいるのにびっくりしたというのがあります。若い人が、6時間くらいの睡眠では足りないと思います。どうしても授業中寝ることになります。せめて7時間は寝るようにしてください。

## 12) 教科書以外に1日どのくらい本を読みますか。

- |               |     |
|---------------|-----|
| (1) ほとんど読まない。 | 51% |
| (2) 30分程度     | 29% |
| (3) 30分～1時間   | 14% |
| (4) 1時間以上     | 6%  |

この51%という数値は悲しい数値です。知識あるいは思考の唯一の源泉は読書にあるとまでは言いませんが、読書が頭脳に非常によい影響を及ぼすのは事実です。ほとんど読まないという数値が、もう少し減るのを期待しています。



図書館ロビー

## 13) 新聞を読みますか。

- |               |     |
|---------------|-----|
| (1) 毎日読む。     | 42% |
| (2) ときどき読む。   | 36% |
| (3) ほとんど読まない。 | 21% |

ほとんど読まない人が21%もいるのは驚異です。ただ、データを個々に見ると、ほとんど読まないと答えた人は、1年生が27%、2年生が22%、3年生が14%で、上級生ほど新聞を読んでいるのが分かり、安心しました。高専生たるもの、せめて新聞くらいは毎日読んで欲しいものです。

## 特集 2 女性教官からのメッセージ

### ~~~~~内面の美を・取りもどそう自分を~~~~~

本校に、専任の女性教官が初めて着任されてから、5年が経過しました。その間に、女子学生の数も急増しております。

そこで、今回は、女性教官から見た本校の女子学生像について、所感を述べてもらいました。

また、非常勤講師で英会話を担当されている江頭先生には、外国人から見た本校学生の印象について、英文メッセージを寄せていただきました。

#### 高専生活に寄せて

電子情報工学科 篠田 登世子

早いもので、本校に転任して4年が経とうとしています。この間、大学と  
いうそれまでの職場と比べ、同じ高等教育機関でありながら、こんなにも違うのかとびっくりしたり、あきれたり、あるいは、すごいなと感心したり、  
新しい発見の連続でした。

なによりも驚いたことは、女子学生たちがとても美しいことでした。成人  
式を何年か前に終えた女子学生や、天神等で、きれいに化粧し着飾った女性たちを見慣れていた目には、本  
校の学生たちの素顔は、光輝き眩しいほどで、感動さえ覚えたものです。

考えてみれば、本校の学生たちは、人として生まれ成長し、その成長が最高点に到達する年令に、丁度当た  
っているのですね。人生で一番美しい時期を、ここで過ごしているわけです。感動を受けるのは当然のことな  
のでしょう。

けれど近ごろ、化粧した学生たちによく会います。会う度に、最高の美しさを台無しにして、何と勿体ない  
ことかと思います。今は、化粧等でなく、一生を美しく過ごすための基礎段階として、内面の美を追求してほ  
しいのです。心の豊かさ、他人を思いやる優しさ、あふれる知的美、そして正しい判断と行動ができる確固と  
した自己、これらを培ってほしいと思います。

のために、たくさんの感動や感激を経験してください。いろんな本を読み感動する。映画やテレビ、音楽、  
絵画から感動を受ける。これらはもちろんだけれど、対象は、それだけではありません。なかなか分からぬ  
数学の問題を一生懸命考え、解けたときの感激、図書館でいろいろな本を、難しいと思いつながらもあきらめず  
に読み、調べ終えたときの喜び、苦心して実験し、得られたデータが、理論式と一致したときの感動、あるいは、  
予期せぬ結果が出てそれを追求する喜び等々、一生懸命に、自分の力を出しきって行った後には、必ず感  
動や感激があるものです。

このような感動をたくさん経験し、長い人生の未来に目を向けて、個性豊かな美しい自分を作りあげるために、  
高専生活を過ごしてほしいと思います。



#### 「だんだんきれいになる」ために

一般科（国語） 岩本晃代

私が本校に赴任してから5年が過ぎようとしています。この5年間で一番の変化といえば、やはり女子学生が急増したことでしょう。女子学生が増加したことによって、男女共学の良さが發揮され、活気が出てきたことも事実ですが、一方では一部の自分勝手な女子学生によって、高専のイメージが悪くなっていることも事実です。同じ女性のひとりとして、大変残念なことだと思います。



をんなが附属品をだんだん棄てると  
どうしてこんなにきれいになるのか。  
年で洗はれたあなたのからだは  
無辺際を飛ぶ天の金属。  
見えも外聞もてんで歯のたたない  
中身ばかりの清冽な生きものが  
生きて動いてさつきと意欲する。  
をんながをんなを取りもどすのは  
かうした世紀の修業によるのか。

これは、高村光太郎の『智恵子抄』に収められた「あなたはだんだんきれいになる」という詩の一部です。  
詩の解釈には作者の生活に還元する方法と、読者の生活に還元する方法があると私は思っています。高専の教  
官としてこの詩を読んでみましょう。

本校の女子学生には、年齢にふさわしくない「附属品」によって「清冽」な感じが損なわれている人が増え  
てきました。制服を着ている間は「附属品」は何もいらないのです。制服を卒業すれば年齢に合わせたおしゃ  
れも必要です。けれども、その場合も「中身」と調和していくなくてはなりません。「中身」が磨かれないと  
それなりのおしゃれしかできず、周りも「きれい」だとは思ってくれないでしょう。

調和のない「附属品」を「棄て」て、自己を「取りもど」してください。私も同じ女性として一緒に努力し、  
「修業」してゆきたいと思います。

#### My Impressions of Ariake Kosen and Its Students

江頭イレーン・スター

Thank you for giving me the opportunity to write this brief account of  
my five years teaching at Ariake National College of Technology, and my  
impressions of the school and its students.

One of the things that has continually impressed me about Ariake Kosen  
has been the fairly free and open atmosphere in which students can study.  
There are rules and limits, which I believe are necessary for students, but  
they are not overbearing, so the students can foster their own individuality  
and mature socially. This is quite contrary to other high schools in Omura  
City where the main emphasis is on passing the University Entrance Exam and  
all energy is spent for that purpose. Therefore, I find this open atmosphere  
and respect for the individual at Ariake Kosen somewhat similar to an  
American High School.



The calibre of students who enter Kosen is very high. However, many of the students drift and lose their  
way during the three years of high school. This is unfortunate. If the students would heed the words from the  
popular song "If We Hold on Together," then they could achieve the success which this school can prepare  
them for. Here are the words:

"Don't lose your way, with each passing day,  
You've come so far, don't throw it away,  
Live, believing, dreams are for weaving,  
Hold to the truth in your heart."

Finally, it is often said that Japanese students lack the ability to think creatively. However, in my English  
Conversation class, most of my tests are oral, and during those tests the students use their own ideas and imagi  
nation to create a basic story within a controlled theme. Given the chance, my students have shown me that they  
can perform some very creative and imaginative skits in English! I'm glad that I am able to give them the opp  
portunity to do this, and hope that my class can be a stimulus for them to continue using English in the future.

高専は、自由で解放的な雰囲気をもち、アメリカの高校にどこか似ています。高専に入學する学生の力量は極  
めて大きいものですが、その多くが3年間に流されて、自分の進む道を見失っています。進むべき道を見失わな  
ければ、学生は、この学校が用意している成功をかち取ることができるでしょう。

高専の学生は、アイデアと想像力を駆使する能力に、すぐれたものをもっていると思います。  
※全文は、各自で読んでください。

# 贈ることば 今、旅立とうとする君たちへ



倉橋先生

小沢先生

## 21世紀の日本をよろしく

機械工学科 5年担任 倉橋 完充

萩尾台での勉学を終え、これから真の自己研さんをはじめる卒業生諸君に、心からお祝いを申し上げます。

伸び伸びと過ごした5年間のゆとりは、何物にも代えがたいものを君たちに与えたことでしょう。また、積み上げ不足は、これからの努力で十分身につける能力を諸君は持っています。

これから本当の自己研さんが始まります。いかなる場合にも向上心を忘れず、目標を高く掲げて前進してください。

今まで私を終始悩まし続けた君たちの新しい価値観を、世界と共に共存共栄できる新しいモラルに育て、君たち全員が21世紀の日本をリードする哲学を持った社会人、技術者に成長することを切に願って、はなむけの言葉とします。

## 「知らない事柄」を認識せよ

電気工学科 5年担任 小沢 賢治

私たちは、中途半端にしか知らない事柄について知ったかぶりをし、なまけた生活を送り、そのまま職場にうもれてしまいがちなものです。

諸君も、職場・大学において、生半可にしか理解していない事柄にたびたび出合うことでしょう。そんなとき、自分を偽ることなく、勇気をもって、それを知らない事柄の仲間に是非入れてもらいたいと思います。知らざるを知るは、知るの始めなりとい

います。

諸君の活躍を心からお祈りします。

## 広い視野をもつことを望む

工業化学科 5年担任 渡辺 徹

皆さんもうすぐ、就職、又は進学されることになりますが、卒業されてからも小説類の本を読むことを勧めます。本を読むことにより、その作者自身の生き方を知り、共鳴することによって、その人独自の考え方の影響を受けることがあります。

今後の社会においては、今よりもっと技術と自然環境との調和を考えた、独創的開発力をもつ技術者が要求されます。読書を趣味として、広い視野をもつ技術者として活躍されることを期待いたします。

## 門出を祝して

建築学科 5年担任 上原 修一

卒業式が春にあるのは、やはり何か先人の知恵があるように感じます。長い冬を経て、重いコートから解放されるこの春、卒業生諸君は拘束（校則？）から解放され、自由を味わいます。

さて、今後必要なことは、物事に対しまじめに取り組む姿勢と、それとつりあう形で、「なんとかなるさ」という開き直り」であろうと思います。未知なる世界への不安は、努力への動機付けとして欲しいものです。

まず健康に注意し、21世紀を担うバランスのとれた社会人となられるよう願っております。

卒業おめでとうございます。



渡辺先生

上原先生

# 座談会 青春 高専クローズアップ

## ■出席者

中村 敏孝（機械工学科5年）

（三菱重工株）長崎造船所入社内定）

塙本 正彦（電気工学科5年）

（三菱化成株）入社内定）

上藤 史子（工業化学科5年）

（東京農工大学編入学予定）

井上 貴明（建築学科5年）

（熊本大学編入学予定）

## ■司会

山下 嶽（教務主事補）

三宅 昭春（教務主事補）

ても厳しいところだと思いましたが、わがままをいってもきりがありませんし、多少我慢しさえすれば、寮生活も楽しいものです。しかし、電気科の5年生で残っているのは、ぼく1人になりました。（笑）  
井上 4年生のとき、1年間休学して留学したのが一番の思い出です。これは、本当に高専だったからできたのではないか、と思います。つまり、大学受験のために使う時間を、学校以外での英会話の勉強や友だちとの付き合いにあてることができ、留学のチャンスをつかむことができました。



留学を通じて、外国人の考え方などを学び、彼らが、とてもしっかりした考え方をもち、勉強していることを知りました。

## 高専だからできたこと

司会 平成5年3月に卒業を迎える諸君に集まってもらい、この15才～20才までの“青春”を過ごした有明高専での生活とはどんなものであったのか、大いに語ってもらいたいと思います。

最初に、5年間の思い出の中で、高専の特徴、あるいは、高専だからできたことなど、特に印象に残ることがありましたら聞かせてください。

中村 2年生まで寮生活をしましたが、父親が亡くなってしまったこともあり、3年生からは福岡からの通学で大変でした。でも、アルバイトに、クラブ活動に、思いどおりの生活をエンジョイできました。

上藤 卒研が厳しいです。実験は、徹夜になったりします。ですから一度、恒温槽に水を補給中、居眠りをして部屋中水びたしになり、指導の先生や階下の先生に、迷惑をかける失敗をしたことがあります。

塙本 4年生のとき、高専祭中夜祭の司会をしたことが一番印象に残っています。



高専生活では、中学時代の同級生が大学の受験勉強に費やした時間を、それとは違った意味での体験として生かすことができ、満足しています。その自信が、学生会長への立候補を決意させました。

また、寮生活も5年になります。1年生の頃はと

## 課外活動

司会 課外での活動について、聞きたいと思います。まず、中村君のロボコン奮戦談など。

中村 設計や製作には、ずいぶん苦労しました。でも、テレビに出了されたのはいい思い出です。

その苦労談ですが、アイデアを7月半ばに考え出したものの、就職試験やNHKへの図面提出締切が重なり、夏休みは、ほとんど図面作成に追われ、製作の方も、重量制限の関係で、パイプの削り直しなどを何度もやりました。

やっと肉厚削りが終わったと思うと、今度は、長さが少し違っていたりとか、笑えない失敗ばかりしました。実際、ロボットが完成したのは、地区大会当日なのです。(笑)

地区大会が間近になると、田口先生などには学校に泊まり込みで指導していただき、ぼくも、大牟田の友だちのところに泊まらせてもらっていました。

司会 大学にも、ロボットコンテストがありますね。中村 知っています。でも、製作にかけては、高専の方が旋盤操作などの実技経験が豊富なだけに、「作り」がよいのではないかと思います。

司会 ロボコンは、高専のPRには格好の役割を担っているようですね。

ところで、井上君は、留学のときに、すばらしいニュースとなるような活躍をしたそうですが?

井上 カナダ各州対抗のソフトボール全国大会の会場誘致会議の席上に、球場の模型を作成、展示したわけです。これは、留学先の友だちと共同で製作したものですが、それが評価され、現地の新聞のトップニュースとなつたのです。多分、ぼくたちの器用さが評価されたのだと思いますが、留学中のできごとのうち、最も印象に残るものでした。

ぼくは、2年生の頃から週1回英会話を学んでいて、その先生の勧めで留学しました。3年生までであれば、たくさんの留学制度があるので、一度、みんなもチャレンジしてみてはいかがでしょうか。

司会(山下) 塚本君は、学生会長として活躍しまし



たが、その苦労話などはありませんか。

塚本 苦労というより、こちらが骨折った分、みんなが応えてくれ、行事がうまく成功したときは、それまでの苦労など吹きとんでもしまう、という貴重な体験をさせてもらいました。

司会 今年の体育祭の取り組みは例年になく早く、練習もスムーズにいっていましたね。これは、会長のリーダーシップがうまく発揮された結果だと思いますが、そのことを披露してください。

塚本 上級生の意識固めがスムーズにいけば、下級生は上級生を見習いますので、自然とうまくいきま

す。ただ、いろいろな要望の食い違いを調整するのに、苦心しました。これも、周囲のスタッフの援助のおかげで、なんとかのりきりましたが。

次期会長の武下君は、下級生の頃から学生会役員として多くの経験を積んでいますので、これからは、より立派な学生会活動を開催してくれるでしょう。

司会 上藤さんは、天文部で積極的な活動をしましたね。

上藤 久留米の青少年科学館で、市民観望会が行われていますが、月1回、望遠鏡の設置などのボランティア活動をしました。ここは、天文愛好家との情報交換の格好の場所で、ずいぶん勉強になりました。



毎年5月には、阿蘇に観測に出かけ、その成果を高専祭などで展示・発表しました。

また、本校で「スカイウォッチャ」という星の観測会を2回ほど開き、みなさんにも参加を呼びかけましたが、PR不足で、参加者が少なかったのは残念でした。

司会 もったいない企画ですね。

中村 ぼくは文化局長でしたけど、そのような企画があることを知りませんでした。知つてれば、もっと違ったPRの方法もあったと思います。

### 就職・進学

司会 話はかわって、就職や進学などの体験談を伺いましょう。中村君は、長崎の三菱重工でしたね。

中村 自分のやりたいことが、なかなか絞り込めずに悩みました。しかし、志望先が決定して、1回でパスできたのは幸運でした。

面接のほかにペーパーテストがあり、それも非常にたくさんの量があるので、日頃からの頭の訓練が必要です。特に英語は最悪で、1,000点満点で240点しかとれませんでした。

会社に入っても、2年間は英語で鍛われそうですから、普段から、英語はしっかり勉強すべきですね。

司会 塚本君の方は、北九州の三菱化成ですね。電気出身としては、少し経路が違うようですが。

塚本 先輩からの情報も得て、いろいろな分野があるということで選びました。

ぼくは、小さい頃から、大きな会社に入り、その会社を動かしてみたいという夢がありました。でも、三菱化成はあまり大き過ぎるので、それは無理ですが(笑)……とにかく、与えられた部門で、しっかりと頑張ります。

ぼくの場合も、面接のとき、ペーパーテストがありました。後輩から試験のことについて聞かれるときは、「簡単だった」と答えていますが、本当はドキドキものでした。でも、その試験の経験でいえば、学生会やクラブ活動、それも5年続けて活動したことは、よいセールスポイントになると思います。

司会(三宅) 大学編入の二人に聞きましょう。



上藤 高専に入学したときから、編入しようと決めていましたから、先輩からいろいろ聞いて、情報収集をしていました。

私は、推薦入学の方でしたが、ペーパーテストがあり、その結果は惨めなものでした。面接官からも指摘され、「落ちた」と思いました。それでも、2人の募集のところを2人しか受けていなかつたので、ひょっとしたら、とも思っていました。(笑)

東京農工大の、「物質生物工学科分子材料化学コースⅡ」に合格したわけです。本当に、専門科目のテストが悪かったのですから、いかに学校での日頃の勉強が足りないか、を痛感させられました。

井上 ぼくは、熊本大の学力選抜の方でしたが、他の受験生に比べて、本当に実力がないことを知らされました。ぼくがまだ半分も終えていないうちに、他の受験生はさっさとやり終え、帰っていくのです。

それで、試験が終った翌日から、もう落ちたものと覚悟して、就職先探しを始めました。

大学編入をしようと決めたのは、4年生の3月頃で、とりかかが遅かったこともあって、先生方にほたいへん迷惑をおかけしました。

編入試験は、英語と数学と専門科目です。面接では、「どうして熊大を選んだのか」、「5年間建築を学んで、さらに学ぼうとする理由はなにか」を聞

かれました。

対策としては、早目に決断し、しっかり勉強して、実力をつけて受験することだと思います。

### 後輩に贈ることば

司会 それでは、最後に、5年間の経験を踏まえて、後輩にひとことずつお願いします。

中村 大学入試に煩わされることなく、十分な時間



があると思うので、自分がなにをやりたいのかを早く見つけ、その目標に向かって努力してほしいです。

上藤 勉強に対し、もう少し積極的に取り組んでほしいと思います。自由過ぎて、自ら進んで学習する雰囲気がないようです。先生方も、強制しても、勉強させるムードをつくってほしいと思います。

自分がいかにのんびりしていたか、いまになって後悔しています。

塚本 学生時代にできることを、いまやっておくべきだと思います。クラブ活動、特に、体を動かす体育系のクラブをなにかやるべきです。学生会活動も、積極的にやってみるとよいと思います。

それに、土曜日も休日になりました。時間は、十分ある筈です。

井上 やりたいことを思う存分やれるのが、高専の良いところだと思います。

自分の夢がなにかということを早く見つけ、先生方に尋ねたり、図書館や計算機室など、学校の設備をおおいに活用して、積極的にやることだと思います。なにより、立派な環境に恵まれていることを、知るべきです。

司会 本日は、どうもありがとうございました。

中村君、塚本君は、それぞれの就職先での活躍を、上藤さん、井上君には、より高度な学業の修得を目指しての奮闘を期待します。

## シリーズ

## 研究室訪問

## 玉野研究室

(建築学科)

今回は、建築学科の玉野 實教授を訪ねました。先生が担当しておられる講義の内容、現在取り組んでおられる研究、望まれる学生像などについて質問しました。

先生は、門外漢の私に、懇切丁寧に答えてくださいり、本校で長年、研究と教育に携わってこられた先生の情熱と真摯さが、質問者にも十分に伝わってきました。

(聞きて 一般科 德田 仁)

**徳田** 先生は講義で建築学概論、建築構法、鉄筋コンクリート構造、構造計画、設計製図などを担当しておられます。その中で鉄筋コンクリート構造とはどんなことを勉強する学問でしょうか。

**玉野** その質問に答えるまえに、現在、世界ではどんな材料を用いて建物が建てられているかちょっとふれてみると、古来から日本では木材、ヨーロッパでは石材、中近東では日干しレンガが使われ、近年ではそれらのほかに、天然には存在しない人工の材料の鋼や鉄筋とコンクリートを一体にした鉄筋コンクリート、更には鉄骨鉄筋コンクリートなどが使用されるようになりました。その中の鉄筋コンクリートは、今から約150年前に生まれたのですが、今日では都市を形成するためにはなくてはならない構造材料です。

そのために、講義ではまず材料・構造の特性について、次に、それによる最適な構造空間をどのように構成すればよいか、更にはそれを用いた柱、はり、壁、床などについてどのようにして断面を算定できるか、教え、また研究する学問だと言えましょう。

**徳田** すると、鉄筋コンクリートを使った建物は世界中どこにでもありますので、鉄筋コンクリート構造は世界共通の学問なのですね。

**玉野** そうです。今の段階ではどんな用途にも万能

で、これ以上のものはないと言えるような材料はないんですね。木材にも長所や短所があるように、鉄筋コンクリートにもやはり弱点があるんです。だから、今後も研究は続けていかなければなりません。

**徳田** その学問の分野において、最も深く、先端化したのが先生のご専門の鉄筋コンクリート造部材の曲げせん断挙動に関する研究だと、素人の私は推察するのですが、それはどんな研究でしょうか。

**玉野** その質問に答えるまえに、鉄筋コンクリートの主な特徴についてまずお話しします。コンクリートは押す力に対しては強く、1平方センチあたり200kgから300kgぐらいの抵抗力がありますが、引っ張るとその10分の1以下の力で破断てしまいます。その脆さを補うために、コンクリートの中に鉄筋を入れるわけです。



R.C柱実験と玉野教授

鉄筋コンクリートによる構造体は、圧縮力や曲げモーメントについてはじめ性があり、比較的問題はないのですが、一番の問題は水平力（建物を横にずらそうとする力）を受ける場合です。鉄筋コンクリート造りの柱や壁が水平力を受けると、斜め方向にひび割れ（せん断ひび割れ）を生じて破壊します。そのような破壊をせん断破壊と呼ぶのですが、それ

は極めて脆い破壊で、瞬時に建物が破壊してしまうます。

したがって、設計に際しては、せん断破壊をしないように細心の注意を払わねばなりません。また、そのせん断力には必ず曲げモーメントが関連します。私は、この曲げとせん断を同時に受ける問題について取り組んでおります。

以前は、ねじりせん断の研究をしていたのですが、1975年の大分県中部地震で、鉄筋コンクリート造り4階建てのホテルが落壊する被害が発生し、それを契機にこの研究にテーマを変更し、今日に至っています。

**徳田** ところで、今、お話しになりました大分県中部地震についてですが、先生は松島先生との共著で「1975年の大分県中部地震の被害とその教訓」の論文の中で、九重レイクサイドホテルの被害状況を詳細に報告しておられます。その中で重要な問題となっている、構造計画及び建築計画と耐震工学との関係について、少しお話を聞かせてください。



九重レイクサイドホテルの被害状況調査  
(左・玉野教授、中・原田教授)

**玉野** 九重レイクサイドホテルは、工事に着工する直前に新潟地震が発生し、軟弱地盤に建つ建物の多くが土の液状化現象で倒れたため、急きょ設計変更されました。

当初は一棟だったのが、建物中央部の2か所に伸縮目地を設けて、壁量（壁の合計長さ／床面積）の異なるA、B、Cの3つのブロックに分割して建てられました。

地震被害は、壁量の極めて少ないCブロックが甚大であって、1階の柱と壁の総てがせん断破壊し、2階床が1階床に落ち込む落壊が見られました。

これに対してやや壁量が多いAブロックでは、たくさんせん断ひび割れが見られましたが、落壊す

るまでには至りませんでした。

そして、Bブロックは、壁量が多かったことからひび割れは発生しましたが、補修すれば使用可能な程度で、被害は軽微でした。



実験室風景

この建物の地震被害から得た教訓をまとめると、次のことが挙げられます。1) 壁量が極めて少なく、しかも偏在する建物ではせん断破壊の発生は避けられない、2) 上下階に比べ壁量が少なく、かつ、その差が大きい階では地震被害が集中する、3) 上部を支持する柱を省く無理な構造にすると、その周辺部の損傷が著しい、4) 建物の各ブロックに階段を設けないと、緊急時に避難できない、5) 最上部が重い建物は、耐震上不利となる、6) 震源地が建物所在地に近い場合では、激しい水平動と上下動が同時に加わって柱や壁がせん断破壊し、それが上下階の床を突き破り建物の落壊をまねく、などです。

**徳田** 最後に、先生が長年研究と教育を続けてこられた経験から、期待される、あるいは望まれる学生像とはどんなものか、お聞かせください。

**玉野** まず、どんな困難をも克服する勇気をもち、たゆまぬ努力をし、また何事にも創意工夫できる学生であってほしいですね。そして、常に先を考えた行動をしてもらいたいものです。

例えば、ハンマーを振るときにも、周囲に人はいないか、万一、柄が抜けても安全か、それらを確認する注意深さがほしいですね。

指導に際しては、個性を重んじ、そして視野を世界に求めるスケールの大きな人間、独創性に満ちた人間、個性豊かで積極的な人間の育成を目指してきました。

**徳田** 先生、今日はお忙しいなか、いろいろ教えてくださいまして、ありがとうございました。

**玉野** いいえ。言葉足らずのところが多々あったかと思います。失礼いたしました。

# 五群全開 加速中!

9月20日(日) / 第17回体育祭

第17回体育祭が、9月20日(日)、全学生の企画・参加のもとに行われました。

今回から、電子情報工学科が独立、「初陣」を果たし、5学科(五群)が勢揃いしました。この五群が、晴天の1日、エンジン全開で、力と技と華を競い合い、萩尾台のグラウンドに勝利の雄叫びを響かせました。



青空高く、  
のほるボード  
(E科)



優勝の原動力・美と迫力の応援団(A科)



さっそうと掲げた「初陣」のボード(I科)



あくまでも、フェアプレーで  
しかし、相手をねじ伏せるまで(ボードはM科)

### 華やかだった第17回体育祭

体育祭実行委員長 建築学科5年 吉田 一広

9月20日(日)、快晴のもと、第17回体育祭が開催されました。

テーマ「五群・全開加速中」のごとく、初の5学科対抗の体育祭となり、また、女子学生の増加もあって華やかなものになりました。

今年は、例年より早めに行われたことで、各学科とも準備が大変だったと思います。無事に体育祭を終えることができたのも、各学科団長、学生会役員、主事室・体育科の先生方のご指導、ご協力によるものであり、改めて感謝いたします。

(学生会長 5E 塚本正彦)

9月19日(土)、体育祭の宣伝のため、市中パレードを行いました。

今年はコースを一部変更して、宣伝効果アップを狙いました。無事終えることができたのも、参加者のみなさん、先生方のおかげです。

(パレード担当 4C 大里浩幸)

### 体育祭実行委員から

体育祭を成功させるため、夢中になって、怒鳴ったりしましたが、みなさんの理解のもと、無事体育祭を終えることができました。

これも、各科の指揮をとってくれた団長、また、ご指導、ご協力くださった先生方、学生係の職員の方々のお力添えによるものであり、改めてこの場を借り、感謝いたします。

(学生会長 5E 塚本正彦)

9月19日(土)、体育祭の宣伝のため、市中パレードを行いました。

今年はコースを一部変更して、宣伝効果アップを狙いました。無事終えることができたのも、参加者のみなさん、先生方のおかげです。

(パレード担当 4C 大里浩幸)



「やつときや、やつぞ!!」力と根性じゃあ 負けんとゾ



貴ノ花と○科の関係?  
とにかく、花の応援団  
「ごっつあんです」



時ならぬ真昼の決闘。軍配は…



だいじょう「V」が現実に  
華やかな応援も、もちろん「V」(A科)



「応援団対抗リレー」  
応援団も、団旗も走る走る

## 小文化祭

小文化祭が、11月5日(木)、全学生の参加のもとに行われました。

主な内容は、文化講演、OBセミナー、文化系クラブを中心とする一般展示等でしたが、一部に、目的意識に欠けるのではないかという情景も見られ、今後に課題を残しました。



華道愛好会



一般棟ロビーを花で満たしてくれました

パンフレットない出し物…アメとりゲーム機?

# 小文化祭 文化講演 好奇心のすすめ 新聞記者の見た世相

講師 高田 英機 氏

今回的小文化祭の文化講演は、熊本日日新聞社論説委員の高田英機氏にお願いしました。

高田先生は早稲田大学を卒業され、経済部記者を振り出しに政経部、放送部長、開発部長などを経て、昨年3月から論説委員としてご活躍中です。

はじめに、大学在学中に新聞記者になろうと決心された動機、新聞社でアルバイト中に経験された大学紛争当時の取材の前線本部のウラ話から、新聞社が機動隊導入の時期を探るために、真夜中に機動隊指揮官宅に次々に電話して在宅を確認していた話などを教えていただきました。

熊本日日新聞社入社後のお話では、郷土出身力士や地元出身の財界人の取材で、力士の酒豪ぶりや肌



のきれいさを目当たりにして驚かされたこと、郷土思いの財界人が親切に取材に応じてくれたことなど、経験談を交え、記事は頭で書くのではなく、足で（取材して）書くことが大事であるということを強調されました。

また、新聞社では若い記者に様々なデータ、例えば車両関係でいえば、その時々の大型車・大衆車、新車・中古車、トラックなどの販売台数を頭の中に叩き込み、大型車が売れているか大衆車が売れているかで景気の動向を判断したり、あるいはトラックの売れ行きから流通が活発に動いているかなど、漫然とデータを眺めているだけではわからない「経済」を、判断する力を養わせているそうです。

最後に、高校生へのアンケート結果などを紹介しながら、好奇心をもち、世の中の移り変わりに興味を抱き、目を開いて、様々な情報を自分なりにとり入れ、幅の広い人間になって欲しいと話を結ばれました。

## 小文化祭 OBセミナー

今年のOBセミナーは、パネラーとして津川仁氏（M16期生、自動車工学研究部OB、平田機工株勤務）を招き、「エコラン参戦記」というテーマで興味深いお話をいろいろ伺いました。

エコラン（エコノミーランニングの略）とは、1



リットルの燃料での走行距離を争う競技（燃費競技）で、平田機工チームは昨年1,025km/リットルという記録で、全国6位という成績をおさめられています。

今年から、本校の自動車工学研究部がエコランの九州大会に参戦（惜しくも途中リタイア）し、また、来年度から機械工学科も参戦するということもあって、セミナーではエコラン用の車の製作に関する質問が多く出されました。質問のなかには、かなり専門的で素人には少し難しい内容のものもありましたが、ビデオやOHPにより車体の構造及び設計法、エンジンの改造法、競技での運転テクニック等のエコランに関する数々のノウハウが詳しく紹介されました。

# ペタンコ星人が明暗を分ける '92 ROBOCON全国大会

・ビッグ・シューター  
<アイデア賞>

## 『'92ロボットコンテスト結果』

◎九州地区大会（10月25日 於 北九州高専）

5M ビッグ・シューター 優秀賞受賞  
(準決勝で、久留米高専に敗退)1E 逆さ破れアンブレラ号  
(1回戦で、久留米高専に敗退)

◎全国大会（11月15日 於 東京・国技館）

5M ビッグ・シューター アイデア賞受賞  
(1回戦で、函館高専に敗退)

“アイデアと技術の甲子園”といわれる'92ロボットコンテスト（競技名は、「ミステリー・サークル」で、16個のバレー・ボールを自チームのリングに入れて合計得点を競うもの。）が終わりましたが、本校チームの成績は、左記のとおりでした。

このコンテストに携わった学生諸君に、その感想を聞いてみました。

宣せられたとき、思わず土下座しました。（笑） シューターの先の「ペタンコ星人」でこぼれたボールを拾いにいき、その先端が着地したのです。この瞬間、ぼくたちの4か月が吹きとんでもありました。



愉快な「オタク」たち（？）

## マシンの由来は。

5M 萩の尾古墳の古文書に、設計図が書いてあり、それを忠実に現代に甦えらせました。（笑）

製作はいつ頃から。そして、出来上がったのは。

5M 7月末から始めて、出来上がりは地区大会当日でした。よりよいものを追い求めた結果で、すべてスケジュールどおりです。

1E 地区大会の1週間前に、完成しました。

出来上がったマシンの感想は。

5M 多くのアイデアがすべて生かせなくて……。でも、全国大会にいけたから、よしとします。

地区大会の印象、そして結果については。

5M また久留米に負けてしまった……。マシンに差はなかった筈なのに、どうして??

1E アームの糸が伸びていて、7個入る予定が狂ってしまった。残念です。

全国大会はいかがでしたか。

5M 1分58秒で時計が止まってしまった。失格を

5Mチーム（上原・山下・緒方君は4M）  
(前列左から中島君・中村君・林君・松岡君  
(後列左から武田君・上原君・山下君・緒方君・長沼君・富安君)

何が認められて、アイデア賞を得たと思いますか。  
5M 皮肉なことに、そのペタンコ星人です。これは、他校にはない吸盤を使った仕掛けでした。

全国大会に出場して、得たものは。

5M 他高専の人と知りあえたことです。ときどき、連絡をとりあったりしています。

いいたいことは。

5M 決して、力負けしたわけではない、ということ。そこで提案したいのは、敗者復活戦を設けて欲しいということです。全国大会に出場するほどのマシンには、ほとんど力の差はないし、ああいう場では、メンタルな面が大きく左右すると思うからです。

その他、なにかあったら。

5M 製作費を増やして欲しい。製作のときに、仮眠する場所を設けて欲しい。それに後輩には、是非全国優勝をしてもらいたい、ということです。

1E 来年も出場し、いい成績をあげたいです。

1Eチーム  
前列左から  
雑賀君・橋本君・  
石橋君  
後列左から  
齋藤君・田中秀君・  
山本君・姫野君

# 卒業生の大学生活紹介

## 私の学生生活

九州工業大学情報工学部  
電子情報工学科3年  
**立野 勝巳**  
(電気工学科25期生)

先輩たちの話を聞いて、大学生としての生活はかなり辛いものになるだろう、と私は考えていました。

実際私は、他の高専から来た人に比べ、習っていない科目が多く、認定してもらえる科目も少なくて、編入した当初はかなりとまどいました。しかし、それでも85単位を認定してもらうことができました。

4年生に上がるためには105単位が必要で、卒業には128単位(卒業研究5単位を含む)が必要です。これは、授業を普通に受けなければ何とかなる数字なので、ずいぶん気が楽になりました。卒業に必要な単位を、もし3年生の間に取ろうとした場合、前後期で平均10科目ずつ受けなければよいことですから。



校舎を背景に

ただ、10科目といっても、私は単位を取りに大学に行くわけではないので、受けたい先生や講義内容などを考えて時間割を作りました。もちろん必修科目についても考慮に入れながら。

ここで少し私から、大学編入をする人たちにアドバイスをするとしたら、前期はいろいろな先生の講義を受けて、その先生の研究内容や教え方を見て、後期の時間割や、卒研の選択の参考にすれば良いと思います。

私の通う電子情報工学科は、半導体、通信、コンピュータを3本柱として授業が構成されていて、私は主に通信について学びたいと思っているのですが、これが意外に少なく、授業内容を概説した授業要目とは違ったことをされる先生も多くおられたりして、少しがっかりしました。

これは、うちの学部ができてまだ日が浅く、過渡期にあるということだからかもしれません。しかし、これはこれで興味を引くことも多く、それなりに樂

しんでやっています。

一般に、編入生はやる気があって良く勉強するなどといわれますが、半年もして実情がある程度分かってくると、本当にそうだろうかと考えてしまいます。同じクラスの人たちを見ても、もちろんこちらが圧倒されそうなやる気のある人もゴロゴロいますが、やる気のない人もゴロゴロいて、高専の雰囲気とあまり変わらない気がします。

しかし、雰囲気は高専と似たようなものであっても、自分自身の考え方は少しずつ変化しているような気がします。そういう意味では、編入は有意義なことだと思います。

いま感じることは、最先端の技術に関する知識を、実際に研究されている先生方に教えていただけるのは、何という贅沢だろう、ということです。授業の合間に、その分野がどの方向に進んでいるかとか、いまどういった状況にあるなどを、雑談として聞かせてもらえるのも楽しみです。

学校のことばかり書きましたので、最後に私生活について少し触れてみます。

週2~3回アルバイトをしながら、自炊生活をしています。料理をするのが結構おもしろく、包丁さばきも様になってきて、転職しても食っていくくらいです。ただ、掃除は面倒なのでたまにしかしません。

とても気楽な大学生活を送る自分が不安になることがあります、まだやる気があるうちはいいんじゃないかなと思う今日この頃です。



ひととき

# 卒業生の活躍状況

## 私の仕事 卒業して13年

森近公認会計士事務所  
**古巣 典子** (旧姓 寺岡)  
(工業化学科13期生)

私は現在、大阪市内にある森近公認会計士事務所で経理事務をしています。高専を卒業して経理事務というと、皆さん驚かれるでしょう。そこでまず、私が今の仕事に就くに至った経緯からお話しします。

高専卒業と同時に、福岡市にある九電産業(株)に入社し、そこで1年半ほど火力発電所の排水、水力発電所の河川の水、地熱発電所の热水などの一般分析及び有害物質の分析をしていました。女性ながら、ときどきは発電所に採水の出張もあり、分析の仕事もなかなか面白いものでした。

やがて結婚のため大阪に住むことになり、退社しました。以前から結婚後も仕事を続けたいと思っていましたので、職種にこだわらず、自分のできる範囲で探しました。そして、警備会社の事務の仕事に就くことができました。そこでは一般事務でしたが、将来のことを考えると資格を持っていた方がよいと思い、夜間の経理学校へ通いました。そこで簿記2級とソロバン3級を取得することができました。主婦・会社員・学生と三役をこなすのは大変でしたが、とても充実していました。

しかし主人の広島への転勤、転職などがあり、仕事をやめざるをえなくなりました。それから数年間、専業主婦として過ごしました。またこの間、長男と次男が生まれ、子育てに忙しい日々を送りました。

子供が3才と2才になり、多少気軽に余裕が感じられるようになると、自分が社会から取り残されているという焦りを感じ始めました。一時もはやく社会に出て働きたいと思うようになり、できるなら資格を生かした仕事をしたいと思い、現在勤務している事務所に再就職しました。

仕事の内容は、会社の決算、税務署への申告、3月の確定申告、12月の年末調整などです。忙しい時期もありますが、やりがいのある仕事だと思っています。



今では子供たちも小学2年生と1年生になり、保育園に通っていた頃と比べるとずいぶん大きくなりました。共働きのため、学校が終ると学童保育というところに行っています。子供たちと過ごす時間は限られていますので、なかなか目がいき届かず、子供をほったらかしにしている面があり、日々反省ばかりしています。仕事ではまだまだ勉強中ですので、これからもマイペースでやっていきたいと思います。

私の在学中は、女子学生は30名足らずでした。今では210名おられるとのことで、頼もしく思います。なかには、結婚してもずっと仕事を続けようと思っている方もおられます。拙い文章ですが、在校生の皆さんの参考になればと思い、ペンをとさせていただきました。今後の皆様のご活躍を期待しております。

最後になりましたが、主人とは吹奏楽部の四高専合同演奏会の合宿で知り合いました。主人は北九州高専の化学工学科卒業後、大阪の某塗料メーカーに就職しましたが、今は大阪府警察官として勤務しております。

# 学生会だより

10月下旬の学生会選挙で、学生会長に当選した武下浩紹君により指名された学生会役員が、学生総会で承認され、新しい学生会が発足しました。その新役員を、以下のとおり紹介します。



武下君



龍野君



藤本君



立石君

## 積極的なチャレンジを

学生会長 機械工学科4年 武下 浩紹

この度、学生会長になりました武下です。先日の選挙のときには、ほとんどのみなさんに信任をうけて本当にうれしく思い、責任の重さをずしりと感じました。

今年度は、学生会も他校との交流を深め、風紀、整美について情報を交換しあい、いろいろ考えて挑戦してみたいと思っていますので、みなさんのご協力をよろしくお願いします。

## 精一杯尽くしたい

体育局長 機械工学科4年 龍野 義栄

12月に、冬季球技大会が行われました。みなさんの多大な協力を得、ひとまずの結果を残せたことに感謝しています。

さて、今年度は、体育祭ほど大きな体育行事はありませんが、球技大会や記録会など、あいかわらず行事は多くありますので、精一杯尽くしていくこうと思います。どうぞよろしくお願いします。



1列 龍野君・樋口君・武下君・今川君・大里君・坂口君

2列 奥薗君・日巻さん・相島さん・井上さん・林さん・武田君

3列 植松君・小柳君・藤本君・立石君・高見君・松尾君・門本君・安井君  
(いずれも左から)

## 協力をよろしく

風紀局長 工業化学科4年 藤本 一志

今年の風紀局は、学校の風紀を学生会だけで考えるのではなく、クラスの風紀委員や先生たちにも協力してもらいたいながら、解決していきたいと思います。

今年はまた、高専祭の年に当たるので、いろいろと忙しくなると思いますが、ご協力をよろしくお願ひします。副局長の安井君とともに、頑張っていきたいと思います。

## ゴミはゴミ箱へ

整美局長 電子情報工学科4年 立石 健一

男子トイレが汚れている。高専は汚い。……等々、いつもいわれていることです。

この現実を回避しようと、我々整美局はいろいろ計画して活動していきますので、ご協力をよろしくお願ひします。

とりあえず、ゴミはゴミ箱へ捨ててください。

## 学生会新役員

会生会長	武下 浩紹 (4 M)
副会長	今川 亮 (4 M)
書記	樋口 拓也 (4 E)
会計	相島 三和 (4 I)
文化局	植松 繁 (4 E)
体育局	日巻 一美 (4 I)
文化局	高見 伸一 (3 M)
体育局	大里 浩幸 (4 C)
文化局	門本 和久 (3 A)
体育局	龍野 義栄 (4 M)
文化局	奥薗 剛 (3 M)
体育局	林 美穂 (3 I)
文化局	坂口 議顕 (2 A)
風紀局	補佐
風紀局	副局長 藤本 一志 (4 C)
整美局	副局長 安井 光洋 (3 A)
報道局	副局長 立石 健一 (4 I)
整美局	副局長 井上 由紀 (3 I)
報道局	副局長 小柳 修二 (2 C)
整美局	副局長 武田 真樹 (4 A)
報道局	副局長 松尾 和登 (3 M)

# 学寮だより

## 新寮長挨拶

機械工学科4年 篠原 篤史

この度、寮長になりました4年機械科の篠原です。これまで、2年にわたって副体育局長、体育局長と、自治会の仕事をやってきましたが、近くで働いているだけで、寮長はきつい役だというのがわかりました。

寮長というのは、自治会及び寮生全員の上に立って、よりよい寮生活を築いていかなければいけません。正直なところ、かなりの不安があります。自分一人ではまず無理なので、自治会全員で協力し合ってやっていこうと思っています。

これから1年間、ともに働いてくれるメンバーを紹介します。

副寮長	3 A 安武君
総務書記	4 M 山下君
会計局長	4 E 樋口君
風紀局長	4 M 松尾君
整美局長	3 A 安井君
体育局長	3 A 岡君
厚生局長	4 C 大里君
報道局長	4 M 林野君
娯楽局長	4 E 植松君
写真局長	3 M 高見君
	渉外 4 M 原田君
	副局長 3 A 瓦林君
	副局長 2 E 山崎君
	副局長 3 A 家永君
	副局長 2 C 小柳君
	副局長 3 A 合屋君
	副局長 2 A 渋谷君
	副局長 3 C 金繩君
	副局長 2 C 矢羽田君

これらのメンバーで、一年間頑張っていきます。話は変わりますが、近頃の寮は、以前の寮に比べ、かなり住みやすい寮になってきたと思います。ですが、その寮をもっと住みやすく、しかも、けじめのある寮にしていこうというのが、これから目指す寮づくりです。

今年は、女子寮ができ、女子学生が寮のいろいろな行事に加わってきます。ということで、今までとはちがう内容にしていかなければいけないので、例年の自治会の仕事に比べ、きつくなると思います。

また、寮長というのは、寮生と先生方とのパイプラインでもあるので、寮生の意見や苦情と、先生方

の考え方との板ばさみになることもあります。

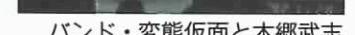
こういった多くのことを、一年間やっていこうというのですから、一人ではやっていけるとは思っていませんが、自分自身を大きく伸ばすチャンスと思い、自治会のみんなと頑張っていこうと思います。自治会をはじめ、寮生及び先生方のできるだけの協力をよろしくお願いします。



寮祭の1コマ



留学生 バンブー・ダンス



バンド・変態仮面と本郷武志

## 女子棟の完成間近

女子棟の新築工事は、9月2日(木)に起工式が行われ、4か月を経た現在、約60%の出来となっています。

建物本体のコンクリート打ちは、12月下旬にはほぼ終り、今後は、内部の仕上げ・設備機器類の取り付け工事に入り、3月下旬の完成を待って、4月からの入寮となる予定です。

なお、学生などに募っていた棟の愛称は、「桜(サクラ)棟」に決まりました。



急ピッチで工事が進められる女子棟

# 好評 730名が参加 —女子の増加が目立つ—

11月1日(日) / 入試説明会・校内見学会

11月1日(日)、好天に恵まれて、平成5年度の入試説明会及び校内見学会が行われました。

昨年は、土曜日を2週使って行われましたが、今年は学校週5日制になったこともあって、日曜日に行われました。

日曜日の実施は初めてのことなので、参加者の数が心配されましたが、幸い、昨年より多くの人に参加してもらうことができ、ほっとしました。



心は早くも高専生（展示説明）

説明会は、参加者730名を3組に分け、午前に1組、午後に2組という形で行われました。参加者の内訳は、参加中学校119校（104校）、男子生徒340名（376名）、女子生徒227名（183名）、生徒計567名（559名）、保護者113名（78名）、先生50名（75名）、総合計730名（712名）となっています。

カッコ内は昨年の実績ですが、比較すると、男子生徒が減り、女子生徒が増え、先生が減り、保護者が増えたことがわかります。これは、相変わらず、女子の高専希望が増大傾向にあることを示していると思われます。

当日は、例年どおりアンケートを実施しましたので、その一部を紹介します。

まず、参加を自分で決めたという生徒が86%で圧倒的に多く、残りは先生や保護者の勧めということになります。また、身内に本校の卒業生、あるいは在学生がいると答えた人が18%います。このように、本校を評価した結果、2割近くの兄弟姉妹等が入学を希望してくれることは、嬉しいことです。

本校のことを前もって理解していましたか、という質問に対しては、ある程度知っていたと答えた人が46%で、かなりの数に達しています。

参加して高専のことがわかりましたか、という質問に対しては、87%の人が「はい」と答えています

ので、今回の説明会はほぼ成功だったと思われます。

実施は何月が適当ですか、という質問に対しては、全体としては10月が一番多かったのですが、個々にみると、先生は8月、生徒は10月、保護者は11月がそれぞれトップでした。

曜日については、日曜日の希望が一番多く、これらからすると、来年も今年にならって、10月か11月の日曜日に設定するのが好ましいのではないか、と思われます。

その他、いろいろな意見が寄せられていますので、いくつかを紹介しておきます。

- 予想以上に校内が広かったので、びっくりした。
- 一つ一つの学科に、違った魅力を感じた。
- 高専という名前に、堅苦しいイメージがあったが、明るい学校だということがわかった。
- 真面目な人ばかりだと思っていたら、すごく面白い人がいて、楽しく見学できた。
- 自分で、パソコンなどを扱ってみたかった。
- 多少気持の迷いがあったが、今日のことで、自分の進みたい学科がわかったような気がする。
- 高校というより、大学にきたような印象を受けた。
- 部活や、授業風景も見学したかった。
- 十分には理解できないところがあった。
- 女子が少ないと思っていたら、たくさんおられたので安心した。
- 希望の学科を重点的に見学させてもらえた、もっとよかったです。
- 進路指導に当たる教師向けなのか、進学を希望する生徒向けなのか、内容をより明確にしてもらえるとありがたい。



「楽しそうだな、と思いました」  
(相談コーナー前)

—・シリーズ・—

## 中学校訪問

米生中学校（大牟田市）

### 障害児との交流教育で やさしい心を育くむ

12月5日(土)、大牟田市の米生中学校に武藤千秋教頭先生を訪ねて、米生中学の特色、活動状況及び高専への要望などについて、お話を聞きしました。

(聞き手 教務主事補 山下 崑)

米生中学は創立が古い学校ですね。その歴史の概略、生徒数の変化などを教えてください。

武藤 もうすぐ50周年を迎えます。以前は荒尾地区と同様、大牟田の中学校も一中、二中……と番号を冠していましたが、新制中学発足のときに、その地域の地名をつけるようになりました。大牟田には現在、11校ありますが、地名をつけていないのは白光中学校だけでしょう。

炭鉱の景気が盛んな昭和38年頃が一番生徒数が多く2,158名、1学年16クラス、1学級50名でした。現在は508名です。特殊学級も昨年まで置いていましたが、本年度は廃止しました。



次に、教育上の特色をお聞かせください。

武藤 近くに曙学園という障害児教育施設があることから、本校の特徴は、障害児との交流教育に力をそそいでいることでしょう。昭和56年、文部省の研究指定校「心身障害児理解推進校」にもなり、それを機会に現在まで続いている活動です。季節的な行事を中心に交流活動を行います。例えば、芋植え、七夕、芋堀り、クリスマス、どんど焼きなど、年5



大牟田一の中學づくりを目指す

回ほど障害児との共同作業を通じて、障害児への「思いやり」の心を育てる教育を実施しています。また、本校の文化祭とか体育祭には、障害児を招待して、一緒に楽しさを分かちあうこととしています。

素晴らしいですね。お見せいただいた資料によると、学校週5日制についても研究指定校となつておられるようですが、特別の取組みをされているのでしょうか。

武藤 今年指定され、1年限りのものですが、いま研究をしていますのは、第4土曜日を「ノーカバンデー」として活用しようと、工夫しているところです。これについては、地域内の小学校、保護者、社会教育指導者の方の協力を得て、年間スケジュールを作り調査研究中です。

対外活動や生徒会活動でも、めざましい活躍があるようですが。

武藤 平成4年12月24日の西日本新聞に、本校の紹介記事が載ります。「保健体育指導」の研究校、「租税教育」の推進校、「統計教育」の協力校、「花いっぱい運動」の協力校として、表彰を受けています。中体連の陸上では総合3位、女子は準優勝でした。生徒会活動では、女子が積極的に活動しています。生徒会長は、「大牟田一の中學づくり」を目標にがんばっています。

最後に、高専への感想や希望をお聞かせください。

武藤 女子の進学者が増加していることや、大学への編入学制度が整備されてきたということを聞き、よいことだと思います。低学年については、もう少し、強制しても学習する手立てを講じられた方が良いのではないかと思います。なぜなら、高専への進学者は、自主的に学習するには、年齢的に未だ成熟していないのではないか、と思われますから。

本日はどうもありがとうございました。今後とも有明高専へのご援助を、よろしくお願いします。

•シリーズ•  
クラブ紹介

男らしい清々しさ  
(ラグビー部)

今回は、走り、蹴り、ぶつかるなど、激しいプレーの連続する人気競技のラグビー部を訪ね、主将の瀬口君(5E)に話を聞きました。

(聞き手 電気工学科 竹下多嘉記)

部員の構成はどうなっていますか。

5年生2人、4年生7人、3年生2人、2年生6人、1年生3人の20人と、マネージャー5人です。



激しいスクラム  
(対久留米戦)



どの程度の練習をやっていますか。

週1日を休みとし、あとは毎日2時間の練習です。夏には合宿をします。練習の中身は、ほとんどが走ることに費やされます。

練習の課題はなんですか。

チーム内でライバル意識が生まれ、連携プレーなどに、もっと頭を使った高度な練習ができるようになります。

ラグビーの魅力はなんですか。

激しい攻防と、厳しい規律、そしてなにより男らしい清々しさです。自分を磨くには、最適のスポーツだと思います。



对外試合の成績はどうですか。

筑後地区、大牟田市の7人制の大会で、それぞれ準優勝、優勝でした。しかし、15人制では、決していい成績は残していません。その差は、このチームの上級生と下級生との層の違いからきていると思われます。

コーチは学外の方ですが、指導はいかがですか。

三井東圧の南さんという方で、わざわざ時間を割いて来てくださいました。コーチの指導は、とにかく走ること、一步でも前に出ること、に尽きます。

今年の高専大会での1回戦負けについては。

悔しいです。それもゼロ敗……。しかし、これが幸いだったと思います。来年、ゼロから出直すためのエネルギーになると信じています。

ラグビーを5年間続けてきて、思うことは。

きつくて、何度もやめようと考えました。でも、この苦しさをのり越えられたということが、社会に出ての自信につながると思うし、自分自身も成長できたと思います。社会人になっても、会社のクラブでラグビーを続けます。

後輩に贈ることは、その他なにかありましたら。

来年は、きっと良い成績が残せると信じています。それに、ラグビーに興味のある人、是非入部してみてください。



息もぴったり・5人のマネージャー

吹奏楽部

第24回定期演奏会を終えて

本校吹奏楽部の第24回定期演奏会が、1月30日(土)、午後6:00から大牟田文化会館大ホールで開催されました。

今回は部員数も増えて総勢38名となり、OBの賛助出演も含めて40名余りのメンバーで、一部オリジナル〔指揮 坂田貴浩氏(OB)〕、二部クラシック〔指揮 菅原一智先生(歴木中)〕及び三部ポピュラー〔指揮 明野英一郎(部員)〕の各ステージにおいて、日頃から練習を重ねてきた数々の曲を精一杯演奏しました。

当日は、本校関係者の方々をはじめ、市内各校の吹奏楽部の皆様並びに一般の市民の方々にも多数ご来場いただき(入場者数約650名)、温かい声援をいただきました。

今後、さらに練習を重ね、より良い演奏会にしていきたいと思っております。

最後に、本演奏会開催に当たりご尽力くださった皆様に部員一同、心よりお礼申し上げます。



九州地区高専体育大会

ラグビーフットボール大会

電気工学科5年 瀬口 正

苦しい夏が過ぎ、とうとう11月がきた。

この日のために、誰もが一生懸命走った。今度の相手は、強豪久留米だ。7月の新人戦でも大敗した相手だけに、負けたくない。

試合当日。マイボールでキックオフ。みんな走る。タックルだ。しかし、終ってみれば惨敗だ。笑顔のやつなんか、誰もいやしない。

また、ゼロからの出直しだ。この悔しさを胸に、寒空のなかを走りこむ。

最後に、応援してくれたみなさん、どうもありがとうございました。

(11月15日、鹿児島高専グラウンド)

1回戦 有明 0-39久留米

冬季球技大会

機械工学科4年 龍野 義栄



12月4日(金)の冬季球技大会は、天気にも恵まれ、終日白熱した試合がくりひろげられました。

寒い1日でしたが、みなさん熱く燃えていたことでしょう。

さて、今回は種目を増やして平均得点制にしたり、召集所を設けたりして、いろいろ新しいことをやってみたつもりでしたが、いかがだったでしょうか。

次回からも、みんなが楽しめるように工夫をこらしていきたいと思います。

第3回プログラミング  
コンテストに参加して

電気工学科5年 丸山 圭二

私たちは昨年に引き続き、プログラミングコンテストに参加しました。今年は卒研としてやってよいといわれたので、前回よりは少しは楽かと思いましたが、実際には卒研の時間だけで作り上げられるはずもなく、結局また夏休みの大半をこれに費やしてしまいました。(締切りが9月だったので……)

今回は、プレゼンテーションソフトやCAIソフトなどを、プログラムをまったく組むことなく作成するための支援ツール“Easy Card”を作成しました。画面にマウスで絵や文章を貼り付けていくだけでよいので、プログラムの知識がない人でも簡単にソフトを作ることができます。(ハイパー・カードではありません。)

結果は予選落ちでしたが、私たちは今回のソフトは入選したソフトにも負けないくらいに素晴らしいものだと思っていますし、何よりも自分たちだけで一本のソフトを作ったことに満足しています。

# 学生相談室案内



カウンセラーの瀬戸先生

学生相談室を知っていますか。保健室の隣にある部屋です。

この相談室は、皆さんのが高専で過ごす5年の間にあう、さまざまな悩みや不安にじっくりとつきあい、皆さんのバランスのとれた心の成長を側面から援助するために開設されています。

皆さんのが過ごす15~20歳の時期というのは、子どもから大人へと変わっていく重要な時期です。自分ではこうしたいと思っても実際に行ききれない等、自分にもわからない心の動きがある時期でもあります。また、高専は、他の高校と違い3年間ではなく5年間あるということ、入学時点で学科が決まっているために進路をはやく決めなければならないこと、5年間同じ学科の仲間とすごすこと等、他の高校生・短大生とは異なる独特的な環境にあると思われます。

相談室を利用する人は、年々増えており、今年度からは女子の相談も増えてきています。

他人にはなかなか話せない深い心の悩み、心身の不調、人間関係、サークル活動をめぐるトラブル、留年等の修学上の相談、家庭内のこと、将来の方向、自分のやりたいことや就職についての相談など、ど

んなことでも、幅広く相談に応じています。また、相談事がなくても、世間話をしに相談室を訪れてくる人もいます。

早めの相談が適切な解決に結びつくことがとても多いものです。1人で思いあぐねる前に、是非、ご相談ください。自分にふさわしい解決や方向を見出せるまで、一緒に考えていきましょう。

心の専門家のカウンセラーが待機して、秘密厳守をモットーに、相談にのっていますので、気軽に利用してください。

相談室では、保健室に予約された上での、直接の来談が原則ですが、電話や手紙による相談もできる限り、応じていきたいと思っています。

#### [開室日]

毎週月曜日

#### [開室時間]

午後3時から6時まで

#### [担当カウンセラー]

瀬戸日登美(九州大学)

#### [場所]

学生相談室



学生相談室(右)

# トピックス

## 学生会指導者研修

10月下旬の学生会選挙で学生会長に当選した武下浩紹君により指名された学生会役員が、学生総会で承認され、新しい学生会が発足しました。

その新役員20名が11月13日・14日に大牟田ハイツで1泊研修を行いました。

13日夜、新役員としての抱負を語り、学生会活動や来年度の行事予定について、活発な討議や検討を行いました。

## 体育系クラブリーダー研修会

1月29日、体育系クラブの新しいキャプテン、副キャプテンに対し、福岡県立社会教育総合センターにおいて一泊の指導者研修会が行われました。

まず、「トレーニング法について」というテーマで本校体育科の井上先生の講演が行われ、翌朝クラブごとに、3つに分かれて分科会を行いました。

分科会では、リーダーとしてのあり方やクラブの運営について、活発な議論がなされました。

そして、最後に全体会で会のまとめを行いました。

## 平成5年度外国人留学生(編入学予定者)

国籍	氏名	編入学科
マレイシア	AHMAD FAUZAN BIN ABDUL HALIM	電気工学科
インドネシア	TAN, TJANG KIE	工業化学科

## バイク実技講習会

12月5日(土)、今年度のバイク実技講習会が、大牟田警察署、大牟田地区二輪車安全普及協会の指導のもとに、本校で実施されました。参加学生は、1~3年のバイク通学生と事故・違反を起こした4、5年生の116名でした。

また、これとは別に今年度新規バイク通学生を対象としたバイク実技講習会も、4月から10月にかけて4回、荒尾第二自動車学校において行われました。

バイク通学生は、これらの講習を生かして安全運転を心がけてください。



## 下宿主懇談会

11月18日(水)、下宿主との懇談会が行われました。11月現在、自宅あるいは寮以外に居住している学生が44名(内、19名が女子)います。親類のところに寄宿している3名を除けば、あと41名が16の下宿、アパート、借宿に居住しています。

当日、7名の方が出席され、学生の日常生活やご苦労をこもごも語ってくださいました。それによると、おむね真面目にやっている様子なので、学校としても安心した次第です。

## (資格試験等合格者)

### 情報処理技術者試験

学科	氏名
第2種 4 C	木下 敦士

### 工業英語検定試験

学科	氏名
3級 5 E	岩村 英範

### 英語検定試験

学科	氏名
2級 4 I	下川 忠弘
3 M	雪野 竹志

本冊子中 M・E……などあるのは、次の学科を意味するものです。

M(機械工学科)、E(電気工学科)、I(電子情報工学科)、C(工業化学科)、A(建築学科)

# ➤ 行事予定 <

- |              |             |             |                             |
|--------------|-------------|-------------|-----------------------------|
| ● 2月15日～18日  | 学年末試験（5年）   | ● 4月12日     | 新入生校内オリエンテーション<br>新入寮生歓迎夕食会 |
| ● 2月21日      | 入学試験        | ● 4月20日     | 開校記念日・寮生球技大会                |
| ● 2月22日      | 休講          | ● 4月23日     | 新入生歓迎遠足                     |
| ● 3月1日～5日    | 学年末試験（1～4年） | ● 5月11日～13日 | 新入生オリエンテーション（阿蘇）            |
| ● 3月5日       | 終業式         | ● 5月11日～14日 | 研修旅行（4年）                    |
| ● 3月6日       | 閉寮          | ● 5月27日     | 春季球技大会                      |
| ● 3月18日      | 卒業式         | ● 6月14日～18日 | 前期中間試験                      |
| ● 3月31日～4月6日 | 体育系クラブ春季合宿  | ● 7月19日～20日 | 保護者懇談会                      |
| ● 4月6日～7日    | 寮生指導者研修会    | ● 7月21日     | 夏季休業・閉寮                     |
| ● 4月7日       | 開寮          | ● 7月23日～25日 | 九州地区高専体育大会                  |
| ● 4月8日       | 始業式         | ● 8月3日      | 四高専合同演奏会                    |
| ● 4月9日       | 入学式・入寮式     | ● 8月8日～9日   | 全国高専体育大会                    |



学生会選挙立会演説会



## 編◆集◆後◆記

- 学年末の、あわただしい時期になりました。
  - 今回は、特集として、昨年7月に実施した「学生生活実態調査」の中から、いくつかの特徴ある生活実態を拾い上げ、分析をしました。
  - また、もう一つの特集として、女子学生が増加したことを考慮し、女性教官から見た学生像について、所感を述べてもらいました。
  - この二つの特集を、学生諸君が熟読・熟考して貰ることを希望します。
  - 例年どおり、「卒業予定者の座談会」、5年生クラス担任からの「贈ることば」も載せてています。
  - 卒業生諸君は、5年間の勉学を十分果たし、学生生活をエンジョイした思いのたけを、「高専青春クローズアップ」ということで語ってくれました。
  - それに対し、クラス担任からは、はなむけの最後の「心添え」が贈られています。
- 本号がお手許に届く頃は、恐らく卒業生諸君が本校を卒立つ時期だと思います。卒業生諸君の、今後の活躍を期待します。
  - ご多忙中にもかかわらず、本号の編集にご協力いただいた方々に、お礼を申し上げます。
  - 最後に、有明高専だより第77号（平成4年3月1日発行）が、平成4年度の国立大学等優秀広報紙の審査で、「奨励賞」に選ばれました。
  - ここに、紙面を借り、関係各位に厚くお礼申し上げます。

有明高専だより 第79号

平成5年2月15日

編集 有明高専だより編集委員会

発行 有明工業高等専門学校

〒836 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1011代